

石油外天然資源タイヤ



世界初*100%石油外天然資源タイヤ「エナセーブ 100」
*合成ゴムが主流になって以降(当社調べ)

将来の石油資源枯渇問題に対して、現在のタイヤ原材料の主流である石油や石炭などの化石資源を使用しない「石油外天然資源タイヤ」の開発に2001年より取り組んでいます。

残り3%の課題を克服し発売を実現

2008年に97%石油外天然資源タイヤ「エナセーブ 97」が完成した際、課題となったのが、「老化防止剤」、「加硫促進剤」、「カーボンブラック」などの残り3%の石油系化学薬品でした。研究・開発を進めた結果、老化防止剤・加硫促進剤は植物由来のバイオマス資源から特殊触媒により合成する技術を開発し、カーボンブラックは植物由来の油分から製造することを可能にして天然資源化を実現しました。

「エナセーブ 100」、先進の環境性能に国内外から高評価

2013年11月に発売した「エナセーブ 100」は、原材料のすべてを天然資源化しただけでなく、耐摩耗性能を当社従来品に比べ19%アップさせたほか、低燃費性能、ウエットブレーキ性能についても高次元で実現させています。こうした成果が内外で認められ、国内では「第10回エコプロダクツ大賞」で推進協議会会長賞(優秀賞)を、海外でも「Tire Technology Expo 2014」で「Environmental Achievement of the Year」をそれぞれ受賞しました。

「エナセーブ 100」石油由来原材料からの置換え技術

